

令和2年度事業報告書（令和2年5月1日～令和3年4月30日）

（敬称略）

《事業の概要》

写真を通じて日本文化の進展に寄与することを目的に、令和2年度は次の事業を行った

《中長期戦略企画室》

1. 文協未来構想のグランドデザインの構築とそのロードマップ作成
 - ・ 中長期戦略企画室・部会にて文協の今後の方向性を協議、その上で日本写真会館構想を検討
2. 日本写真会館未来構想実現へのスケジュール化推進のための具体策の構築
 - ・ 日本写真会館構想にテーマを絞ったプロジェクトチームを結成（正副会長、中長期メンバー他 / コーディネータ役を日税不動産情報センターに委託）し、構想具体化を協議
3. 写館協との事業連携のための具体的内容の推進（総務部と連携）
4. 会員減少の中、会員維持・拡大策の検討・推進

《総務部》

1. 令和元年度功労者表彰/令和2年度功労者の決定
 - ① 令和2年6月22日(月)第74回定時会員総会にて令和元年度功労者（特別功労賞1名・団体功労賞2団体・功労賞8名）及び、令和2年春・黄綬褒章受章者1名を報告・紹介
 - ② 令和2年度功労者表彰候補者4名選出、第2回理事会で承認、併せて令和2年秋・黄綬褒章受章者1名

を

第75回定時会員総会にて報告・紹介

2. 写館協との事業連携（アライアンス）
 - ① 令和2年度年会費50%減額……文協、写館協それぞれの決議であったが、連絡を密に共同で発表
 - ② 令和2年7月熊本豪雨災害対応……写館協と連携し、スピーディーに義援金依頼を関係者に発信
義援金総額2,600千円（文協より、37,250円支出）
3. 会員数減少に伴う、理事数及び副会長・常任理事数削減の検討
 - ・ 第2回理事会にて審議・承認し、第75回定時会員総会に定款変更案を上程（第3号議案参照）
4. 公益社団法人化検討と問題点の整理
 - ① JPS（公益社団法人日本写真家協会）、PSJ（公益社団法人日本写真協会）より聴取した公益社団法人化のメリット・デメリットを比較検討
 - ② 公益社団法人化の条件である、「公益目的事業比率50%以上」について現状の支出ウェイトを確認するとともに、今後の支出見通しをもとに継続的にクリア可能か、精査を開始
5. 国際交流の推進・WPCの認知度向上策とWPC2021への参画
 - ・ WPC2021国内応募総数 300点
 - ・ WPC2021授賞式（4月イタリア・ローマ オンライン・ライブで開催）
ウェディング部門・世界8位入賞 下宮伸一氏 ベストオブネイション賞（国別最高得点賞）川上和俊
6. 文協加入団体の見直し
 - ・ 東京都写真美術館に退会を申し出たが、コロナ禍中での「休会」提案を了承。一年後に対応決定
7. 関連団体との情報交換と関係強化
 - ① 日本写真著作権協会との連携強化による文協会員の著作権意識の浸透
 - ・ JPCAニュースの全会員への配布 ・ 月例会議への出席 ・ 文協全会員に対して新ID番号の設定
 - ② JPS、PSJ、APA（公益社団法人日本広告写真家協会）との連携
8. 事業年度変更要望への対応
 - ・ アンケート調査を実施し、現行6月総会（変更せず）の選択が最も多く、事業年度変更に関する議案上程を見送ることとした
9. 成人年齢引下げに伴う成人式典年齢対応 : 公共団体情報の収集とその活用
10. 日本写真会館テナント管理徹底 : 管理業務委託先の(株)ジェイコとの連携強化

《財務部》

1. 令和元年度の公益目的支出計画実施報告書、正味財産増減計算書等の内閣府へ7月末提出・受理
2. 財務月度管理の徹底 : 徳田経理顧問・三ツ澤財務部長・植村財務副部長・事務局と毎月実施
3. 令和3年度予算の策定 : 予算案の策定、第2回理事会にて議決承認

《事業部》

1. スクールフォトビジネスの構築

- ① 第 66 回全国展フォトコンテスト・学生の部 応募点数 1,333 (対前年 5.4%)
- ② 第 66 回全国展フォトコンテスト・学生の部の検証と第 67 回の企画推進

2. 高校写真部向け撮影セミナーのマニュアル化の推進

《文化 部》

1. 全国展フォトコンテスト(全国写真展覧会)の実施

① 第 66 回 (入賞入選作品展)

新型コロナウイルス感染防止のため、東京都美術館(東京・上野)における表彰式(令和 2 年 5 月 28 日・

木)

及び発表展(令和 2 年 5 月 28 日・木～6 月 4 日・木)を中止したが、他会場は下記の通り、実施した

- ・ 応募数 : 2,795 点(対前回比 90%)、 応募件数 : 1,394 件(対前回比 87%)
- ・ 審査員 : 水谷たかひと、米美知子、田中秀幸、奥田昇、小林かずとも
- ・ 入賞入選 : 入賞 26・入選 73 点・優秀賞 15 点 計 114 点
- ・ 入賞入選作品展、会場・会期・入場者数

会 場	会 期	入場者数(前回比)
富士フィルムフォトサロン福岡	令和 2 年 9 月 11 日(金)～16 日(水)	134(57%)
富士フィルムフォトサロン大阪	令和 2 年 9 月 25 日(金)～10 月 1 日(木)	2,130(81%)
富士フィルムフォトサロン札幌	令和 2 年 10 月 16 日(金)～21 日(水)	622(72%)
ポートレートギャラリー	令和 2 年 12 月 17 日(木)～23 日(水)	185(65%)

- ・ 「全国展・入賞入選作品集」の発行(令和 2 年 6 月)

今回より「全国展フォトコンテスト」経費削減のため、有料化(税込 2,000 円/冊)

② 第 67 回 (中止)

令和 2 年 12 月 7 日(月)より募集開始したが、急激な新型コロナウイルス感染拡大のため、応募作品増へ

の

働きかけ、審査会、表彰式を安全に実施することは難しいと判断、募集締切前の令和 3 年 1 月末中止決定

2. 全国展フォトコンテスト改善策の検討・具体化

※ 第 67 回は中止になったが、改善策を反映した内容で企画立案を進めた

① 改善のポイント

- ・ 経費の見直し・収支差額の改善(収支差額 ▲約 7 百万円)
- ・ 文協会員の応募増を図る(過去 5 年間平均 181 件、全体の 12%)
- ・ 自然(ネイチャー)をテーマとする応募点数増を図る(第 66 回では前回比▲20%)

② 改善策

- ・ 収支差額改善

応募料値上げ 単写真 1,000 円→1,500 円/枚・組写真 2,000 円→2,500 円/組、学生の部有料化 500 円/

人

応募要項「一般用」「学生用」→「兼用タイプ」、入賞者の展示制作料金値上げ等

- ・ 文協会員応募増

組写真の作品サイズを応募が容易な A3 サイズに変更

都道府県→ブロックフォトコンテスト応募作品を全国展にスムーズに応募できる方法を検討中

- ・ 同一部門だった「日本の文化」「日本の自然」を分離。自然(ネイチャー)をクローズ・アップ

3. 第 69 回「写真の日」記念講演の開催(中止)

- ・ 第 66 回全国展・表彰式後に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染防止のため、同様に中止

4. ポートレートギャラリー運営

① ポートレートギャラリー展示作品申込み・実施状況 (但し令和 2 年 1 月～12 月迄の 1 年間)

48 会期を予定したが、新型コロナウイルス感染防止のため、25 会期を中止、実施は 23 会期
展示申込み概況は、申込み数 53 選考合格 48 落選 5 (倍率 1.1 倍)

② 写真展開催実績 : 企画展 1 展、公募展 24 展 計 25 展 (令和 2 年度)

※その他に公募展 24 展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できず

〈公募展〉・主催 : 会員展 1、写真学校 1、一般グループ 16、一般個人 6 計 24 展

- ・ 内容 : 風景 6(25%)、山岳 2(8%)、花 1(4%)、鉄道 1(4%)、ドキュメント 3(13%)、人物 3(13%)、
混在 8(33%)

5. 写真展「写真館物語」～写真館で残す家族の歴史～

① 新型コロナウイルス感染防止のため、開催を 1 年延期し、ブロック写真展を令和 3 年夏～秋、全国合同の写真展(ポートレートギャラリー)を令和 4 年 1 月開催として、準備を開始

② スムーズな準備推進のため、ブロックごとに写真展担当者を決めて、10 月、2 月に会議開催

③ 令和 2 年度末までに 10 ブロック 14 会場での開催を決定

④ ブロック写真展開催に向けて、開催準備ツール(写真展ご案内用 DM はがき、ニュースリリース編集キット 会長挨拶文、「写真館物語」ロゴデータ等)を製作・配布した

6. 写真の普及並びに写真文化・芸術に関する調査(一般や高校生に対して写真普及事業の展開)
 - ・ 山梨県高等学校写真連盟年間表彰(日本写真文化協会賞)
 - 金賞 : 山梨県立韮崎高等学校 加藤賢太郎 銀賞 : 山梨県立韮崎工業高等学校 深沢賢太
 - 銅賞 : 駿台甲府高等学校 相馬碧斗
7. 写真の祖 下岡蓮杖翁の顕彰(中止)
 - ・ 新型コロナウイルス感染防止のため、令和3年3月3日(水)予定の墓参会(染井霊園・巣鴨)を中止した

《広報部》

1. 文協の知名度・ステイタス向上のための活動推進・・・情報発信と受信窓口としての活動の展開
2. 機関誌「写真文化」の発行と更なる充実及び、全国会員からの情報収集の確立推進
 - ① 新型コロナウイルス感染拡大影響のため、7月号、9月号、11月号の発行を中止し、令和3年新年号は、コロナ禍、そして後の新しい文協をテーマとする内容で発行
 - ② 令和3年度以降、経費削減のため、発行回数を6回/年→4回/年に変更することを決定
 - ③ 「写真文化」発行減の対応及び新たなトライアルとして、メールマガジン「写真文化+(プラス)」を令和3年2月より発行開始
3. 写館協編集部との情報交換
 - ・ 同梱発送による経費削減及び、定期的な情報交換による編集企画の独自性確保
4. IT関係
 - ① メールマガジン「写真文化+(プラス)」企画推進と未収都道府県からのメールアドレス収集促進
 - ② ホームページ、SNS有効活用による、文協PR推進(「写真館物語」～写真館で残す家族の歴史～等、実践)
5. 広報関係
 - ・ ニュースリリース(全国展・会長年頭所感・「写真館物語」～写真館で残す家族の歴史～等)

《教育訓練部》

1. 令和2年度・第57回夏期写真大学講座の休止
 - ・ オリンピック/パラリンピック開催時期と重なり、交通機関の混雑・宿泊料高騰等の理由で中止した
2. 令和3年度・第58回夏期写真大学講座の休止決定
 - ・ 新型コロナウイルス感染防止及び、オリンピック/パラリンピックの令和3年への延期開催による影響のため、中止を決定
3. 技能検定(1・2級)隔年実施の見直しと対応
 - ① 「写真職種・肖像写真デジタル作業」1・2級受験者数が継続的に100名未満にあり、厚労省の基準により、隔年化の見直し
 - ② 令和3年度は実施予定であり、都道府県に受検者増の働きかけを実施